

連合 2025 春季生活闘争中央討論集会 主催者あいさつ

2024 年 11 月 1 日  
日本労働組合総連合会  
会長 芳野 友子

1. みなさま、大変お疲れ様でございます。
2. Web 参加の方も含め今年も多くの方にご参集いただいたことに感謝します。
3. はじめに、元日の地震から復旧・復興の途上にあった能登半島に甚大な被害をもたらした、9 月の豪雨災害に触れたいと思います。お亡くなりになられた方に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被害を受けた皆様にお見舞いを申し上げます。
4. 本日の出席者の中にも、連合救援ボランティアへ参画いただいた方もいらっしゃいます。被災地支援の取り組みにご理解・ご協力をいただいたすべての皆様にあらためて感謝申し上げます。
5. つづいて、先日行われました第 50 回衆議院議員選挙について、ひとことだけ触れたいと思います。
6. 短期決戦の中、連合は「与党を過半数割れに追い込み、今の政治をリセット」するという明確な目標を掲げて取り組んで参りました。全国の仲間の皆さんの懸命な取り組みの結果、目標を達成することができました。
7. すべての構成組織、単組、地方連合会の皆様の取り組みに対し、最大級の敬意と賛辞を送りたいと思います。ありがとうございました。
8. この結果を生かし、連合がめざす「働くことを軸とする安心社会」の実現にむけて、立憲民主党、国民民主党、構成組織、地方連合会、連合本部が一丸となって働く者や生活者に寄り添った政治や政策の実現に力を注いで参りたいと思います。

9. さて、本討論集会は、春季生活闘争の方針策定に向けた重要な場です。本日の基調講演は、独立行政法人 労働政策研究・研修機構 藤村（ふじむら）理事長と連合総研の市川（いちかわ）所長のお二方からいただきます。ご多忙の中、ご快諾いただいたお二方にまず御礼申し上げます。ありがとうございます。
10. 10月18日開催の第13回中央執行委員会において確認された「基本構想」にもとづき、多くの方からご意見をいただいて「2025 春季生活闘争方針」の策定につなげていきたいと考えておりますので、本日は活発なご発言・ご議論をお願いします。

#### <2024 闘争の振り返り>

11. 討論に先立ち、あらためて前回の闘争を振り返りたいと思います。
12. 2024 闘争は、1991 年以来 33 年ぶりとなる定昇込み 5%台の賃上げを実現しました。「みんなで賃上げ。ステージを変えよう！」というスローガンのもと、みんなで主体的に賃上げの大きな流れをつくりあげた結果、経済社会のステージ転換に向けた大きな一歩を踏み出しました。
13. しかし、中小組合の賃上げは定昇込み 4%台にとどまりました。私たち連合は、中小企業や労働組合のない職場で働く仲間も含め、誰もが生活向上を実感できるようにしたいと考えています。

#### <2025 春季生活闘争を取り巻く情勢>

14. 「基本構想」の内容については、後ほど提起しますので、ここでは 2025 闘争を取り巻く情勢について簡潔に申し上げます。
15. まず、世界情勢ですが、ロシアによるウクライナ侵略は、解決の糸口が未だ見出せておりません。中東情勢も緊張が続いており、一日も早い平和的な解決が望まれます。アメリカ大統領選の行方を含め、原油価格の上昇など世界経済や為替変動に影響を及ぼす、国際的な動向を注視していかなければなりません。

16. 一方、国内では与野党の代表が変わり、金融・経済政策の先行きが不透明です。物価は高止まりしており、厚労省の毎月勤労統計調査によれば、実質賃金は6、7月がプラスだったものの、8月は再度マイナスに転じています。日々の暮らし向きがまだまだ苦しいことは、連合総研や日銀の調査などでも明らかです。

<2025 春季生活闘争方針の策定に向けて、今日の討論に期待すること>

17. このような状況を踏まえ、2025 春季生活闘争方針の策定に向けて、本日の討論に期待することも含め所見を5点申し上げます。
18. 一つ目は、みんなの生活向上です。
19. 国内外ともに不安定要素が多い状況にあっても、人口減少下でわが国が社会や産業・企業を維持・発展させていくためには、中長期を見据えた「人への投資」が不可欠なことに変わりありません。
20. ステージ転換に向けて大きな一步を踏み出した今こそ、「賃金も物価も上がらない」というこれまでの社会的規範、いわゆるノルムを変えなければなりません。新たなステージを定着させ、手取りを増やすことで個人消費を拡大し、賃金と物価の好循環をめざしましょう。
21. みんなの生活向上という点では、近年、初任給引き上げをはじめ、若年層への配分が手厚い一方、中高年層への配分が手薄い傾向も課題です。人材確保のみならず、人材の定着やモチベーションの維持・向上などの観点も含め、賃上げ原資の配分について労使でしっかりと協議していくべきだと考えます。
22. 「未来づくり春闘」として、政労使が社会的責任を果たす好機にしたいと考えています。
23. 二つ目は、格差是正です。
24. 中小労組などは格差是正分を積極的に要求いただきたいと考えています。そのための環境整備として、サプライチェーン全体で生み出した付加価値の適正分配、適切な価格転嫁、働き方も含めた取引適正化を一層進めなければなりません。

25. 「労務費の適切な転嫁のための価格交渉に関する指針」の周知徹底はもちろんのこと、連合が新たに作成した「取引適正化・価格転嫁に関するチェックリスト」も活用のうえ、全力で取り組みましょう。
26. 連合として「良いものには相応の値段がつく、適正な価格がある」ということについても繰り返し発信し、消費者への理解促進をはかっていきます。
27. 三つ目は、政策・制度の実現です。
28. 現下の物価高や被災した能登の対応などをめぐり、補正予算案や政府の経済対策などに関する本格的な国会論戦が速やかに繰り広げられることを期待しています。政策制度の取り組みを車の両輪として、働く者の総合的な生活向上をめざしていかなければなりません。春季生活闘争との関係では、政府には、物価や為替レートの安定を含め、適切なマクロの経済社会運営を求めています。
29. 四つ目は、ジェンダー平等・多様性推進です。
30. 春季生活闘争は、賃上げだけでなく労働環境についても労使が集中的に論議する絶好の機会でもあります。連合「ジェンダー平等推進計画」は2030年9月までを計画期間とする「フェーズ2」について議論を重ねており、11月28日の第94回中央委員会で確認予定です。「フェーズ1」で達成している目標を維持し、未達の目標は達成をめざしましょう。チェンジ・チャレンジ・ムーブメントの取り組みについて、この機会にぜひ、労使で点検をお願いします。
31. 五つ目は、仲間づくりです。
32. 私たち労働組合の強みは、同じ職場で働く仲間の声をもとに要求書を提出し、労使対等な立場で交渉する権利が保障されていることです。賃上げへの期待が高まっている今こそ、労働組合の存在意義を社会的にアピールし、仲間づくりを一層推進していきましょう。

#### <むすび>

33. 結びに「未来づくり春闘」は、2022 春季生活闘争からスタートしました。翌年の

2023 闘争で転換点をつくり、2024 闘争ではステージ転換に向け大きな一歩を踏み出すことができました。そして今回の 2025 闘争はこの流れを社会の隅々まで浸透させ、動き始めた賃金、経済、物価を安定した巡航軌道に乗せることで新たなステージを定着させましょう。この場に参集されたみなさんが社会のうねりをつくるリーダーです。

34. そして各組合で真摯な交渉を繰り広げる組合員一人一人が、すべての働く仲間の未来をつくる主役です。連合はこの重大な役割を担い、運動をけん引していきます。

35. 連合、一体となって、ともに頑張りましょう！ご清聴ありがとうございました。

以 上